

お助け!!  
**探偵局**  
 真相徹底追究

題字：下河巻史選手



### 依頼書

少し前のテレビドラマ「不適切にもほどがある」は過去と現代を行き来しながら、「懐かしいなあ」を連発していました。それを見ながら「ボートも昔は良かったなあ」なんて思いました。そんな企画、できないでしょうか。

ふてほど競艇(群馬県)



### オッズ盤

2連単時代は重宝された対岸のオッズ盤だが、現役で稼働しているのは24場でも浜名湖くらいではないだろうか。ほとんどが大型映像装置に置き換わるか、そのまま残して風よけの壁になっている。全国で唯一3連単のオッズを表示していた戸田も最近大型液晶に切り替わった。

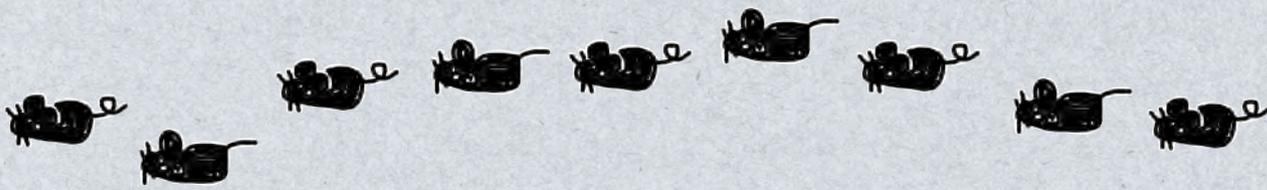
今はなき、あの頃の競艇  
 「不適切にもほどがある」、おもしろかったですよ。私(探偵)もハマって見てました。ということでした。いただいた調査依頼、テーマを「今



### 廃場となったボートピア

1986年、香川県丸亀市の「ボートピアまるがめ」開設以降、84か所まで増えたボートレースチケットショップ(BTS・24年11月末時点)。38年に及ぶ歴史の中で廃止となったのはボートピア釧路と習志野だけ。釧路は99年、習志野は2020年のこと。競馬を含めた公営競技の場外施設で、ボートが最も廃止・休止が少ない。

はなき、あの日見た競艇の風景」として、現代では見ることができない少し懐かしいボートに関するあれこれを探していこうと思えます。キャリアの長いファンにとつては「懐かしい」が連発するかも。



### ヘルメットの変遷

選手の命を守る重要な役割を担うヘルメット。1997年に現在のフルフェイス型になったが、それまではジェット型を使用していた。覆われる面積が増え、安全面は大幅にアップした。ただこのヘルメット、前方の視野が広く、耳の部分に穴が開いている特注品。そのため、公道を走ることはできない。フルフェイス移行後、大きく変わったようには見えないが、耳の穴が小さくなったり、強度が上がったりと進化を続けている。



### FKS・SKS

スタート事故撲滅はいつの時代も業界の悲願だ。その危険を選手に知らせることでフライングをなくそうとしたのが住之江のFKS（フライング警報装置）と尼崎のSKS（スタート感知システム）だ。どちらもフライングのタイミングで加速していくとスリット手前で警告音が鳴るといった仕組みで、スタート事故防止には一定の効果があった。しかし、警告音が鳴ると選手は大きくアジャストするため、レース隊形が大きく変わってしまい、不評の声も小さくなかった。維持費も高価で、FKSは2003年、SKSは06年に廃止となった。



### ウイニングラン

現在のウイニングランは、救助艇に乗る場合はヘルメットが不要だが、自艇を操縦する場合は、ヘルメットを装着することが義務付けられている。これは2013年に発生した鈴木詔子選手の死亡事故を受けた安全措置で、試運転で水面に出る際も必ずヘルメットを装着しなければならなくなった。それ以前は、選手自身が操縦するウイニングランが一般的だったので、それを盛り上げるボートの装飾もどんどん派手になっているところだった。松井繁の写真は13年7月若松オーシャンカップで優勝した時のもの。



### 出場選手手書き看板

尼崎では入場門をくぐってすぐ左の所に今節と次節の出場選手一覧が掲載されていた。こちら、データを含め一枚一枚手書き。ゴシックのフォントがなんとも味わい深く、同地の名物看板ではあったが、現在はデジタル化され、看板はなくなってしまった。





題字：下河巻史選手



### 出走表

本場に行くとは必ず手にする出走表。最近では場外発売の関係もあって、簡易版が置かれる場も少なくない。昔は本場入場者数も多く、本場に特化した舟券の発売方法だったこともあって、出走表の質が高かった。今でも本場くらいは簡易版ではなくオリジナル版を置いてほしいと願っている。



昭和31年勝舟投票券



**舟券** 舟券も年代ごとに進化を遂げている。写真は桐生に展示されていたもので、昭和31年、昭和45年、昭和50年のもの。最も古い昭和31年の舟券は10R 3-1、4R 2-3という連勝式が穴で記されている。昭和45年になるとレシートのような印字に。今とは別物のような舟券だ。



若松「ひびき」



住之江「らいふく」

### 名物グルメ

安くてうまいが売りのレース場グルメ。場ごとに名物があるが、やむにやまれぬ事情でなくなってしまったものもある。住之江の焼きそば「らいふく」は、大きなレースの時にはいつも行列ができていたが、ナイターになったのを機に閉店。大盛りで食べ応えがあったなあ。若松のホルモン焼「ひびき」も2018年に閉店。香ばしい煙に誘われてバクバク食べていたころが懐かしい。



本栖研修所



現在



### 本栖研修所

福岡県柳川市にあるボートレーサー養成所。現在地で選手養成を行うようになったのは2001年3月から。それまでは山梨県の本栖湖にある「本栖研修所」で訓練を行っていた。現在、本栖の施設は台湾の宗教団体「臨済宗 佛光山本栖寺」へと変貌している。施設の一部はお寺としてリフォームされたが、ほとんどが居抜きで当時のまま使われている。